



日野町消防団

第29回全国消防操法大会 (ポンプ車の部)出場!



10月29日(土)、千葉県消防学校で第29回全国消防操法大会が開催されました。

大会では、各都道府県の操法大会を勝ち抜いてきた代表チームがポンプ車の部(21チーム)、小型ポンプの部(24チーム)に分かれて操法を披露されました。

日野町消防団の選手の皆さんは、7月31日(日)に開催された第57回滋賀県消防操法訓練大会においてポンプ車の部に出場し、見事優勝され、2大会連続となる全国大会出場を決められました。

大会当日は、これまでの練習の成果を遺憾なく発揮され、多くの仲間の応援のもと、一致団結しすばらしい操法を披露され、第13位という結果となりました。

操法訓練によって、技術の習得はもとより、消防団員の結束をより深められました。

出場された選手の皆さんをはじめ、出場選手を支えた消防団員、ご家族、関係者の皆さん大変お疲れさまでした。

【出場選手】(敬称略)

指揮者	吉沢 拓馬	(中之郷)
1番員	小森 洋輝	(奥之池)
2番員	古道 祥彦	(杉)
3番員	浦田 重嗣	(小野)
4番員	市田 晃	(中之郷)
補助員	山田 浩嗣	(北脇)
補助員	奥野 博志	(佐久良)



◆問い合わせ先 総務課 総務担当 ☎ 0748-52-6500

温故知新

日野歴史探訪

私たちの住む日野町には、52の大字があり、それぞれの地域が豊かな自然と歴史文化で彩られています。温故知新では、町内各大字の歴史と代表的な文化財をシリーズで紹介していきます。

大字熊野

大字熊野は町の東端に位置し、綿向山麓の傾斜がなだらかな高台に開かれた集落で、町内では最も標高が高い地点(約420メートル)にあたります。

その歴史は元応元(1319)年の資料に「熊野」の地名があることから、南北朝時代には集落が開かれていたことがわかります。

かつては、農業や採薪、焼炭などの山仕事を中心に、昭和38(1963)年ごろまで、亜炭採掘が行われていました。当時の人々の生業が、鈴鹿の山に深く根ざしたものであったことがわかります。

熊野神社について

大字熊野の鎮守である熊野神社は集落の中心に位置し、綿向山修験の一拠点として広く信仰を集めていたと伝えられています。紀伊山地の熊野那智権

現を勧請したもので、修験者由来の地名や信仰対象が残っています。そうした例から修験者の活動が集落の形成に関わっていたことがうかがえます。

聖観世音菩薩立像

熊野神社には、神仏習合の影響によって、神宮寺が建立され仏像が祀られていました。この寺に伝えられてきた聖観世音菩薩立像は、その作風から平安時代の作品と推定され、昭和51(1976)年に町指定文化財に指定されました。

平安期の仏像は一材で造られる一木造りが主流であり、本像も一材から彫り出されています。しかしながら、両腕や天衣の縁を細かく表現するため、別材を用いて彫刻を施し、割矧(わりはぎ)をしていることが特徴的です。

割矧は切り離れた材を接合する技法で、一般的に像内部を削り抜く内割り

を大きくするために用いられますが、一部を除き一材から彫られた丸彫りの本像は内割りが施されていません。この局所的に施された割矧は珍しく、本像の豊かな表現と、造像の過渡的な技法を今に伝えています。

【熊野区木造聖観世音菩薩立像】



熊野神社の弓神事

熊野神社では、毎年正月に「お祈り」という弓神事が行われます。熊野には、大蛇退治にまつわる伝説があり、

的を大蛇の目に見立てているといわれています。

この弓神事は熊野神社の氏子である熊野・平子の若者6名が射手となり行射を執り行います。烏帽子に狩衣姿で片肌を脱ぎ、古くより伝わる作法で終始無言で厳粛に進められます。

弓神事は、矢を放つ際の弦音が場を鎮め、魔を払うとされ、年頭の邪気払いの意味をもつとされています。古式に則り執り行われる熊野の弓神事は、新年の安寧を祈る人々の思いが込められた神事です。

【熊野神社の「お祈り」】



◆問い合わせ先

近江日野商人ふるさと館「旧山中正吉邸」

☎0748-52-0008